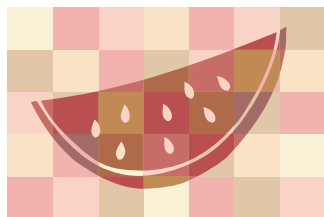
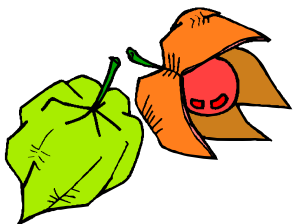


茅ヶ崎 自然の新聞



17年7・8月合併号(268号)

【編集】

茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発行】

茅ヶ崎市文化資料館

〒253-0055

茅ヶ崎市中海岸2-2-18

TEL&FAX: 0467-85-1733

Mail: shiryokan@city.chig

asaki.kanagawa.jp

夏休み自然教室を開催しました！

「第19回夏休み自然教室」を7月22日(金)~24日(日)の3日間、文化資料館で開催しました。今年で19回目を迎える本教室は、体験学習を通じて身近な自然に対する興味をもってもらい知識を深めてもらうことを目的として、毎年行っています。今年も3日間で、803名の方々にご来館いただきました。ありがとうございました。大変多くの方にご来場いただきうれしい反面、予想を超える来場者数のため、十分な対応ができなかったり、希望の

コーナーに参加できなかつたりしたことを、お詫びいたします。

また、ご協力いただいた市民ボランティアのみなさまには、心からお礼申し上げます。ずいぶん前から様々な準備をしていただきました。おかげで、よい教室が開催できました。本当にありがとうございます。

来年も、より楽しく学べる夏休み自然教室が行えるよう、知恵を絞っていきたいと思います。

(文化資料館 須藤 格)



(左上：バードカード作り、右上：ビーチコーミング、左下：ミニミニ自然観察会、右下：藍染体験)



森の宝もの（工作）



昆虫コーナー



竹で水鉄砲作り



ビーチコーミング



↑ 巣箱作り、植物の拓本作り ↓



↑ 野鳥コーナー、顕微鏡コーナー ↓



2005年度の自然教室

ここ数年、夏休み自然教室のために文化資料館へ足を運ぶ市民の数がかなり増加し、特に家族で楽しんでくれている雰囲気（きょうぐ）を心強く感じる。自然教室の催し（もよお）しそのものに、期待をされているのだろう。

その原動力は、資料館職員の積極的PR活動の結果でもあり、事業を催す側も、過去の陳列的（ちんれつてき）デモンストレーションから物に触れる、体験的実習に努力目標を向けてきたからであると思う。各コーナーをみてみると、木材をカットして巣箱（すこば）作りをする。自宅でバードウォッチングの楽しみが増える。

竹で水鉄砲（みずてっぽう）を作り楽しむ。今日の住宅環境の変化で、忘れ去られている自然の遊びである。

バードカービングは、鳥の形（かたち）を削り上げる彫刻（ていこく）であるが、経験者の指導のもとに成型し自分の好みの色に塗り分ける創意（さいぎ）が楽しめる。

海水魚の水槽（すいそう）の中もヘッドランド周辺ですくい上げた稚魚（ちぎょ）が加わった。後から貝類（かいりゅう）やそのホーズキ（巻貝の卵）が加わり、魚達がどのようにしてホーズキを食べようとしているかが観察できた。ウミシダというヒトデ（ひとで）のような海藻（かいそう）のような、動物も口に入るものを求めてクモの巣（くものす）のように翼（は）を広げていた。

昆虫コーナーでは、イトトンボの羽化（はげ）が偶然（ごうぜん）観察できた。カブトムシが今年も展示され、最終日に恒例（こうれい）の子供たちのお土産（みやげ）となった。また植物、昆虫のミニ観察会も資料館内で行われた。植物の葉を集めた、拓本（たくほん）づくりも葉脈（ようみゃく）の美しさに皆さん感激（かんじ）していた。

シダ植物（しだしょくぶつ）や苔（こけ）の顕微鏡（けんびきょう）観察もレベルの高い観察会だ。さらには池（いけ）の中の微生物（せいぶつ）の顕微鏡（けんびきょう）観察も色々と発見（はっけん）が楽しめた。

今年もタデ科の藍（あい）という植物で行った、藍染（あいぞめ）が中々の人気（にんき）を博（ひろ）した。子どもたちが色々な面白いデザインを生み出した。Tシャツにデザインを創作（さくしやう）した人もいた。



海岸（かいぎ）の観察会（くわんさつかい）は、幸（さいわい）い曇（くも）り空（そら）で日射病（ひせびょう）を免（まぬ）れた。漁港（りやうこう）の船置き場（ふねおきば）は、漁船（りやうせん）の底（そこ）に付（つ）いてくる海（うみ）の動物（どうぶつ）にお目（め）にかかれる場所（ばしょ）だ。



今年は、中海岸（なつかい）にアカウミガメ（あかうみかめ）の胸板（むねい）の一部（いぶ）が打ち上げ（うちあげ）られていた。20年（にじゅうねん）も前は、この辺（へ）はカメ（かめ）の産卵場（さんらんば）でもあった。漂着物（ひょうちゃくぶつ）の研究者（けんきゆうしゃ）にとっては、自然（しぜん）が提供（ていきょう）してくれる偶然（ごうぜん）に夢（ゆめ）を感じる（かんじる）ものだ。



（菱沼海岸 井川洋介）

Nature of Chigasaki in Brief

茅ヶ崎自然情報

柳島の花ごよみ

7月12日（火）は、蒸し暑い日でした。いつものように、柳島記念館横から海に向かう道を入りました。キャンプ場への道沿いには、木にからまるアオツツラフジ、ヘクソカズラ、エビズルなどのツル植物が繁茂し、中でもアレチウリが以前に比べて急に増えたように思いました。クズの葉がどれもレース状になっているので、3人（斉藤、河野、石井）でよく見ると、コフキゾウムシの仕業でした。

キャンプ場入口に着くと、残念なことに休業で門が閉まっていた。仕方なく周囲のフェンスをぐるりと回って、何とか切れ目を探し、キャンプ場南側の林に入ることができました。しばらく行くと、たまたま今までの調査で見落とししていた所に出たのか、ハマカキランが数えただけでも28株見つかりました。よく調べればおそらくもっと見つかると思われます。

先月の『自然の新聞』に載った、管理事務所近くのハマボウフウは、小さな手まりがひとかたまりになったような実をつけていました。ルーペで見ると、小さな実の表面に、放射状の赤紫色の模様のある突起があって不思議な形をしていました。

管理事務所北側の林には季節がら、キャンプ用テントがいくつも張ってありました。先月ハマカキランを確認した辺りを歩いて、20株近くのハマカキランを再確認しました。

渚の散歩道周辺も含めると、海岸にはまだかなりの数のハマカキランが残っていることが分かり、安心しました。今回の花ごよみでは、株数ばかりにとらわれて、ついその花の状態をきちんと観察するのを忘れてしまいましたのが反省点です。

（東海岸南 石井準子）

茅ヶ崎のコバンソウ

『茅ヶ崎自然の新聞』の266号（5月号）に、井上千代子さんが「黄金色のコバンソウ」という題で、茅ヶ崎市文化資料館の庭にコバンソウが帰化していることを書いておられた。

筆者が、茅ヶ崎の海岸近くで最も早くコバンソウを見かけたのは、昭和40年（1965年）ごろである。当時、平和学園幼稚園に勤務されていた大橋マン先生が、幼稚園の園長会議で種を頂いてこられ、平和学園幼稚園の庭にまかれたことを覚えている。その後、道路を越して学園の中学・高校側の校庭に、ものすごく沢山繁殖して広がっていったのを見た覚えがある。他の幼稚園でも、まかれた先生がおられたかもしれない。

この植物は、そののち茅ヶ崎の海岸近くのあちこちに生えているのを見かけるようになった。

また、ちょうど日本経済がバブルの頃の平成1～2年の頃、東京の新宿でこのコバンソウを東にして「この植物を持っていると金持ちになる」と言って、相当高い値段で売っているのを、知人（竹内氏）が見かけられたそうである。

井上さんの記事を読んで、以上のような事を思い出したので、お知らせします。



（藤沢市藤が岡 小原 敬）

シジュウカラ日記のその後

はじめに日記に訂正があります。

17年6月号(第267号)の1頁の5月8日の欄は、削除します。

5月25日以降、度々巣材^{すまゐ}を運んでいましたが、5日ほど過ぎると、シジュウカラの声も姿も見ることもなく、巣箱は放棄されたようです。

7月に入り、金属に近い声の幼鳥3羽と、オス・メスが、朝9時から10分ほど、家から巣立ったヒナかどうか分かりませんが、3日間ほど毎日同じ時間にやってきて、庭に降りたり、梅の枝に止まったり、にぎやかに遊んでいきました。

来年も巣箱を利用してくれる事を楽しみにしています。

(東海岸南 河村まき子)

サンコウチョウ

6月23日、芹沢で「ギイ、ツキ、ホン、ホイホイホイ」と囀^{さえず}るサンコウチョウの声を聞いた。

高い木々の間から囀る声が、休みなく聞こえてくるわりには、姿は全然見えない。鳴き声をたどって、追いかけていると、反対の山の中でも囀っている。向こう側に飛んで移動しているのか。それなら飛んでいる姿を見られるはずと思って、山の頂^{いただき}を見ていたが、その姿は、一向に見られなかった。

もしかして、雄2羽がいるのかもしれない。帰りがけに上面が茶色の2羽の見慣れない鳥が、高い木の枝にいつまでも止まっていた。

6月27日、「ギイ、ツキ、ホン、ホイホイホイ」と確実に2ヶ所から聞こえてくる、しばらく立ち止まって囀る方向を見ていたら、目の前の小枝に尾の短い茶色の鳥が止まった。双眼鏡で見ると、下面が白く、

上面が茶色、頭が黒い、雄のサンコウチョウだ。

サンコウチョウは、5月頃、スギやヒノキの沢沿いの暗い林と溪流のある場所に住み、雄雌つがいになり、幼鳥を育てる。

そのような場所が少なくなっているのだろうか、あのつがいのサンコウチョウはどこにいったのだろうか。

(香川 目黒啓子)

台風の置き土産～アカウミガメ

台風7号は、本州に平行して北上し、房総半島をかすめ去った。雨量はかなりあったが、風があまり感じられない珍しい台風だった。

7月27日、浜に出るとゴミはほとんどなかった。コケムシの漂着が、海岸一面にあった。新聞報道だと、鎌倉や平塚はゴミの山で、市民がゴミを取り除く風景があちこちで見受けられた。なぜ茅ヶ崎の浜はゴミがないのか?これが海流や湾岸流のなせる不思議だ。

菱沼海岸から白浜町方面へ散歩すると、放水路手前にアカウミガメの首無し死体が一つ、東海岸に向うとヘッドランド手前にまた首無し死体があった。

7月30日、東海岸のカメの死体は夜のうちに波に引き取られたのか、なくなっていた。白浜町のアカウミガメは、においが鼻を突いた。8月1日には、白浜町のカメさんも、波が持ち去った。今度は、どこへ漂着するのだろうか。



(菱沼海岸 井川洋介)

台風7号

本年は早くから台風が発生している。台風5号(7月12日発生)は、日本の南を西に向かい、沖縄の西を西北に進み、台湾、中国大陸に向かった。

その後、日本の東に6号が現れ、その後7号が7月24日夕方に発生した。小笠原の父島の南に起こり、26日には980haになり、暴風圏内は風速25m/秒、時速25kmであった。

この台風はその後、潮岬の南方から北上し、東海から関東南部に上陸し、北海道に達すると見られた。その関東南部上陸は26日夕刻から深夜にかけてと予報された。

仙台行き、広島行きの空の便が運休になった。船は八丈島行き、東京湾フェリー、久里浜～金谷間が運休となった。

小田急線は、ロマンスカーが箱根行き、江の島行きが運休になった。ところが新幹線や東海道線は交通止めにはならなかった。

大雨洪水警報は、埼玉、東京、群馬、千葉に早くから出された。石廊崎で27.7mの強風があり、天城山は453mmの雨が降った。

夕方4時頃から、風は東寄りになり、静岡は上陸を免れ、相模湾の南を北東に向かった。

踊り子号やあずさ、かいじも運行止めとなった。ディズニーランドは強風に備え、人気のある遊具も空中には置かず、ロープで地上に降ろし、浅草の山門の大提灯も畳まれ風に備えた。神奈川の雨量も300mmを超え、箱根は400mmを優に超えた。

17時頃、神奈川中央・箱根・津久井に大雨洪水警報が出され、西湘バイパスは通行止めになった。

夕方7時頃、一時風速は30m/秒になった。天城山では、雨量は300mmを越

した。200mmを超えると土砂災害が起こるといふ。

本県の雨量は、300mmになった。

夜8時には、時速35kmと速くなって行き、9時には勝浦付近と言われたのが西に少し片寄り鴨川に上陸、房総半島を北上し、銚子市の南から太平洋に抜け、27日早朝には東北沖を北海道に向かった。

(7月27日 朝8時記録)

(若松町 樋田豊宏)

ミニニュース

7月17日 中島のあちこちで、ニイゼミの鳴き声が聞けました。

7月20日 柳島の藤間邸の中から、ミンゼミの声を聞きました。

7月20日 中島の小出川沿いの草むらから、キリギリスの音が聞こえます。数も多いです。

7月15日 我家の北側に、たくさんのトウキョウヒメハンミョウがいました。こんなに見るのは初めてです。先をあらそうように飛んでいきました。

(中島 平石 宏)

希少水生生物発見

今年の夏、寒川町の目久尻川近くの用水路にて、黒メダカを発見しました。ただ、群れの中には緋メダカも含まれており、完全な野生メダカかどうか微妙なところです。

次は、希少水生植物の発見情報です。いずれも7月下旬～8月上旬にかけて発見しました。

● イチョウウキゴケ

採取地：寒川町宮山の田んぼで1株

採取地：芹沢の休耕田で多数

● ミズワラビ

採取地：堤の休耕田で5株以上

● ミズオオバコ

採取地：寒川町の休耕田＝多数

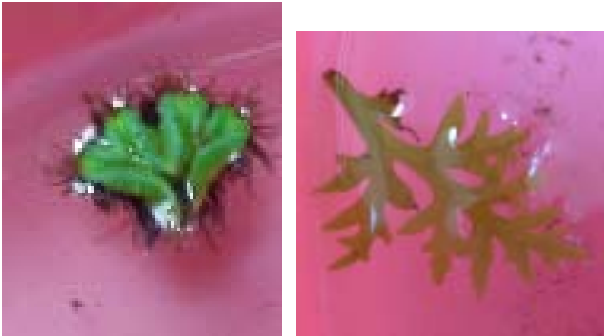
● シャジクモ

採取地：寒川町宮山と田端の田

これらの水生植物は、絶滅の恐れが高まりつつある、希少な植物です。近年の宅地開発や、埋め立てで消滅する地域が後を立ちません。何か良い方法は無いものでしょうか。

また希少生物を見つけたら、報告致します。

茅ヶ崎市内で、野生メダカが泳いでいる場所はあるのでしょうか。どこかに居ると信じて、今回の報告を終わりたいと思います。



イチョウゴケ ミズワラビ
(白浜町 神田理雄)

ガマガエル騒動記

3月18日(金)、燃えないゴミを捨てに行こうと歩いていると、^{みちばた}道端に黒い^{そうきん}雑巾のようなものが落ちていたのが見えた。「まったく、誰がゴミをこんなところに捨てたのよ！」と近づいてみると、なんと体長15cmくらいのガマガエル(アズマヒキガエル)でした。カエルが大好きな私は、とても嬉しくなったものの、捨てようとしていた傘^{かさ}で道の端^{はし}に寄せ、「車に轢^ひかれるなよ！」と言い残して仕事に出かけた。

その日帰ってから、ガマガエルを置いた場所に行ってみたが、姿は見えず、「どこ

かへ隠れたか？」と振り返るとなんと家の前の道路の真ん中に居るではないか。「お前さん、絶対轢^ひかれるって！」と、家の中から使い捨ての手袋を持ってきて、家の植え込みにポイッと置いておいた。

3月19日(土)、朝起きて家の周りを見回したが、ガマガエルの姿は見当たらず「今度こそ隠れたか？」と家の入ろうとすると、玄関脇のゴールドクレストのそばに穴を掘り、近くにあった空の植木鉢をかぶって、目だけを出しているガマガエルを発見。即「ガマ君」と命名し、「可愛いなあ、大きくなれよー」と冗談で水をかけておいた。

3月20日(日)、「はて、ガマ君は元気かなー？」と玄関を開けるとゴールドクレスト及び、ガマ君の隠れ家一帯に黒い帯が。「どこからビニールテープが飛んできたのか？」と片付けようとしたが、よく見るとあろうことかカエルの卵でした。「エ？」と驚きながらも、「ガマ君」はメスだったことがわかり、ガマちゃんに愛称を変更。

一瞬、家の前に洗面器で池を作り、ガマちゃんを卵ごと保護しようかと思ったが、家族(特に娘)の反対にあい断念。

再び使い捨て手袋を手にし、ガマちゃん&卵をビニール袋に入れ、近くの水路へ。何と、そこはカエルの卵の巣でした。ガマちゃんは水に入れるとすいすい泳ぎ、あつという間に隠れてしまった。

何でも、去年の台風で冠水した際に水路に住んでいたカエル達も流され、家の近くで冬眠したのだらうということでした。

その後、卵たちは順調に孵化し、膨大な量のオタマジャクシとなって泳ぎ回り(というより、うごめき)、立派なカエルになったらしく、先週までは元気に毎晩グログロ鳴いていたが、今週は暑くなったせいか、鳴き声が聞こえなくなった。また来年、元気な姿を見せにきてくれるといいなあ。

(市内 大貫裕子)

Information

案内

おしらせ

- 「茅ヶ崎自然に親しむ会」
『横須賀・猿島を訪ねる』
日時：9月18日(日)
問い合わせは
安井利子(52-3856)まで
- 「清水谷を愛する会」
『定例清水谷観察会&保全作業』
日時：9月4日(日)9時30分
～15時
集合場所：市民の森駐車場(堤)
問い合わせは
田部許子(51-2955)まで
- 「柳谷の自然に学ぶ会」
『トンボをみよう』
日時：9月25日(日)10時～
集合場所：里山公園 風のテラス
問い合わせは、
野田晴美(51-8489)まで
- 「三翠会」
三翠会では、市内の川や水辺の生きもの
の調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、
お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなど
に取り組んでいます。ご協力いただける
方は、下記までご連絡下さい。
事務局：河村まき子(87-8313)
- 「大庭自然探偵団」
『遠藤笹窪谷』
日時：9月11日(日)
10時～14時
問い合わせは、滝沢まで
(0466-88-5306 夜間)
- 「駒寄川水と緑と風の会」
『駒寄川流域観察』
日時：9月4日(日)13時30分
集合場所：民俗資料館 旧和田家集合
問い合わせは、
池田尚子(52-8919)まで

★ 9月号の原稿の締め切りは、9月10日(土)までをお願いいたします。

★ 文化資料館のホームページを、更新しています！チェックしてみてください。
<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/shiryokan/index.html>

(文化資料館)

記事募集!

自然の新聞では、様々な方からの投稿をお待ちしております。今回は、「夏休みに出会った自然」に関する記事をお待ちしております！メール、fax、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp
までよろしく申し上げます。

(文化資料館)



ツユクサ

T. ASABA